

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470400274	事業の開始年月日	平成11年3月25日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会			
事業所名	クロスハート中・横浜			
所在地	(〒231-0056) 神奈川県横浜市中区若葉町3-46-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月9日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域密着型のグループホームを目指し、地域の方々と密につながりを持って活動していきたい。</p> <p>・法人の理念である「全てよきものを人生の先輩たち後輩たちに捧ぐ」を基本に「伝える・伝わる」を事業所の理念として掲げ、利用者が毎日楽しく安全に過ごしていただくとともに、職員とのコミュニケーションを大切にサービスを行なっていきたい。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年1月21日	評価機関 評価決定日	平成23年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>《事業所の優れている点》</p> <p>◇地域との親密な交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者は交替で、毎日イセザキモールの商店街に食材の買い物に出かけて、馴染みになった商店に立ち寄って、店員とのおしゃべりを楽しんでいる。 ・夏の縁日や秋祭り、餅つきなどの地域の行事に参加して、芋煮をいただくなど地域住民と交流している。 <p>◇毎日作る利用者の好みを取り入れた献立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の献立は、利用者の好みを把握して職員が考え、家庭的で季節感のある食事となるように心がけている。 ・利用者はできる範囲で配膳、下膳、お茶汲みや茶碗洗いをしている。 <p>《事業所が工夫している点》</p> <p>◇利用者への医療支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科医の往診前に「健康と往診の記録」をFAXして利用者の様子を伝え、また、往診後の様子や専門医からの指示を記録して、職員で情報を共有している。かかりつけ専門病院への受診には職員が同行し、診察時に利用者の様子を伝え医師からの指示を得ている。 <p>◇介護計画作成へのアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居後、複数の職員が関わり「24時間生活シート」を1週間連続して記入し、暮らし方の思いや意向を把握して介護計画に反映している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	クロスハート中・横浜
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は事務所の入り口に掲示している。 ・月1回のミーティングにて理念や経営計画書の読み合わせを行ない、全体で具現化されているかを確認しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の方針「伝える・伝わる」と「スロー・キャッチ・スロー」をリビングに掲げている。 ・職員は利用者に、言葉や態度で心を伝え合う、コミュニケーションを大切に生活することを意識して、日々実践している。 	職員会議や毎日の申し送りの中で、理念や事業所の方針をサービスに如何に具現化しているかを確認し合うことが望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に入会し、お祭りや縁日には、利用者も参加している。 ・買物や散歩に出掛け、店の人や近所の方達と気楽に声を掛け合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入しており、管理者が会合に出席して行事の手伝いをするなど、交流を深めている。 ・利用者は、近隣の商店街に買物に出かけたり、夏の縁日や秋祭り、餅つきなどの地域の行事に参加して、芋煮をいただくなど、交流を楽しんでいる。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、地域（町内会等）に、高齢者施設が存在する事を認知していただくよう働きかけは行なっている。 	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・去年の家族会と併せて、開催する予定でしたが、予定が合わず、開催できていない状況です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、まだ開催していないが、地域ケアプラザ、町内会、民生委員など、行政や地域とはそれぞれ個別には関係ができており、家族にも参加要請をして、開催に向けて日程を調整している。 	運営推進会議の今年度中の開催の実現と、来年度以降も継続して開催されることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の更新や区分変更時には、中区役所に出掛け担当者や面談し情報交換を行ないサービスの質の向上に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中区保護課の担当者が3か月ごとに事業所を訪れて、利用者情報を交換し、また緊急時連絡するなど日常的に連携している。 ・新山下地域ケアプラザからは、新任ケアマネージャーの研修の受け入れ要請や入居相談を受けている。 	

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・管理者および職員は、身体拘束を正しく理解しています。徘徊のある方も拘束せずに、納得いくまで動いて頂いています。ただし、必ず職員が付いています。	・身体拘束をしないことを運営規定や契約書に明記し、家族に説明している。職員は身体拘束について理解しているが、研修は行っていない。 ・安全のために、玄関や非常口は施錠している。	職員に対する年間の研修予定に、身体拘束についても組み込み、実施されることが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者研修で学びましたが、職員に対しては学ぶ機会を設けておりませんが、情報を共有し、注意を払い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・支援しています。区のケースワーカーと生活保護受給者の件でアドバイスを頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時や退所時等に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営規定に明記の通り家族の意見や苦情を聞き入れ運営改善に努めている。 ・1階のエレベーター前に意見箱を設置している。また家族会や電話にて、意見や要望を聴いている。	・行事の際、家族に手紙を出してお誘いしているが出席がなく、要望や意向は電話連絡時に確認している。 ・来訪する家族には個別ノートに感想や利用者とのやりとりなど記録してもらい、その中から要望の把握に努めている。	

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のミーティングにて意見等を聞き、サービスの改善や職場づくりに反映している。	・職員間で情報を共有するため、連絡ノートを作成して活用している。 ・管理者は、要望や意見を訊くように、日々職員とのコミュニケーションに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・働きかけようと努力している。楽しい職場を作ろうと努力はしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・入職時にOJTを設けている。法人内の研修や外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・地域の同業者と交流を図りつつある。 ・新人ケアマネの研修での場所提供を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・笑顔にて安心していただき、声掛けにより受け止める努力を行っている。		

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・適宜、電話連絡や行事連絡を通じ行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・近隣病院への受診に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・築こうと努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・毎日買物へ出掛ける途中や散歩時に、馴染みのある店などには立ち寄り話をしたり、挨拶をしながら行なっている。	・入居前から懇意の洋服店に服の補修を依頼したいとの希望や、知人との面会の連絡を取り次ぎ、関係の継続を支援している。 ・商店街の馴染みの店に立ち寄って店員とおしゃべりを楽しんでいる。	

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・認知症の症状には、色々あるので、利用者の理解を得た上で、席の配置換え等を時々行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他施設への移動された利用者やその家族には、定期的に伺っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・必要に応じて行なっている。事前にケース会議を開催しケアプランに落とし込み、把握して活用に役立っている。	・入居時に「できることできないことシート」や、一週間継続して「24時間の生活シート」を記入し、暮らし方の思いや意向を把握している。 ・利用者のしぐさや表情を観察して、要望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・必要に応じて行なっている。事前にケース会議を開催しケアプランに落とし込み、把握して活用に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・必要に応じて行なっている。事前にケース会議を開催しケアプランに落とし込み、把握して活用に役立っている。		

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員それぞれの客観的視点や色々な意見を聞きプラン計画をしている。(2ヵ月に一度ケース会議を行ない介護計画に反映させている。)	・職員ごとに2名の利用者を担当し日常の様子をモニタリングしてケース会議にかけ、家族の意向も反映して介護計画を作成している。 ・3か月ごとに見直しているが、昼夜逆転傾向や骨折など、変化があった場合はその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・生活の記録や連絡ノートにて行なっている。様子に変化があった時は、入居者個々の記録を作成し、職員や看護婦へ伝え情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・現状では、対応は困難である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアには月に1度来訪して頂き、楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・希望により掛かりつけ医を利用している方もいるが内科医は月2回往診しており他に週1回の訪問看護と歯科往診を行なっている。	・入居前の専門医の受診を継続している利用者もいるが、内科医と歯科医の往診、訪問看護は全員が協力医をかかりつけ医としている。 ・往診前に医師に「健康と往診の記録」をFAXして利用者の様子を伝え、往診後の様子や医師の指示を記録して職員で情報を共有している。	

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携により、24時間365日の医療・看護体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合は、入院先の医師と専属医の間で話し合い等をして頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ターミナルケアを実施している。これまでに1名の看取りを経験している。 ・入居時に利用者の容態が悪化した時の施設の対応について家族に説明し同意を得ている。	・契約時に、利用者の容態が悪化した場合の対応について家族に説明し、書面で同意を得ている。 ・急な終末の看取り経験があるが、今後の終末期対応については、法人内の他事業所の例などを参考に組み込む予定である。	終末期対応については、職員との共通認識が必要と思われます。研修計画を立てて実施することが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事故が起きた場合の対応や火災報知機の操作方法などを職員に落とし込み、対応や方法を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、年2回の消防訓練の実施をしている。 ・3日分の食料・飲料水の備蓄をしている。	・消防署の指導を得て、年2回の避難訓練を実施している。8月の夜間対応訓練では、利用者が参加し非常階段を使った訓練を行った。 ・非常時に、乾パン、水、非常食、カイロなどを備えている。	

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報の取り扱いに関しては、慎重に行なっている。	・個人情報取り扱い方針をリビングに掲示している。職員の対応で利用者にプラスの影響のある言葉かけなどは共有してケアに活かしている。 ・利用者には、人生の先輩として言葉遣いを心がけ、管理者は職員にも日常的に振り返りの指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・働きかけは行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は事業所の都合を優先することなく、利用者一人ひとりが自分のペースで生活できるように支援している。意思表示ができる利用者には希望を聞いて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご家族の要望を聴き、外出時や誕生日には、おしゃれをして外出等をしえんしている。意思表示ができる利用者には希望を聞いて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立は常勤者がつくっている。買物時に利用者から希望があれば、可能な範囲で応じている。出前もとることもある。能力に応じて職員と一緒に配膳・下膳を行なっている。	・献立は、利用者の好みを把握して職員が考え、家庭的で季節感がある食事を心がけている。 ・利用者はできる範囲で、配膳や下膳、お茶汲みなどを行っている。 ・誕生日には希望を聞いて出前を取ったり、おせち料理、恵方巻きなどの行事食も楽しんでいる。	

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の摂取量や水分を記録している。法人の栄養士に献立表を、1週間に一度FAXをし、カロリーやバランスのチェックを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自分で口腔ケアが出来ない方には、食後に口腔ケアを行なっている。入れ歯の方には、就寝前に全て預かり、洗浄剤にて朝まで保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・定期的な誘導と、様子を見ながら行なっています。尿意や便意がある方は落ち着かなくなる傾向がありますので、定期的な誘導以外にも随時声掛けし誘導して対応している。	・半数の利用者は排泄自立しており、職員は利用者の状況に注意しながら見守っている。 ・非自立の利用者には、排泄チェック表を活用して日中は時間を見てトイレに誘導し、夜間はベット上でパットの交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘症の方に対してはバナナや牛乳等を召し上がって頂いたり、水分摂取強化をして便通を促している。できるだけ、下剤の服用は避けたい。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・自立者には、午前・午後の好きな時に入浴してもらっている。夕食後や就寝前に入浴の希望があれば、対応している。全介助の方には、月9回入浴するよう支援している。	・ユニットバスで、自立の利用者が安全に入浴できるようシャワーチェアや浴槽台を設置している。 ・介助の必要な方は男性職員が抱えて介助しているが、希望者には同姓介助している。 ・入浴を好まない利用者には、時間をずらしたり、職員が介助して入浴してもらっている。	

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・安眠できない方には、安定剤等の処方を受けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・管理者とケアマネが薬の管理をしています。他には訪問看護の看護婦に聞いたりして対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者には、配膳・下膳 食器洗いなど役割を持っていただき、残存能力を活かして規則正しい生活が送れるよう支援。民謡や歌・習字、ゲームなどを楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・毎日の買物には、必ず利用者と共に掛けている。・天気の良い日や祭事には、外出を心掛けており、大岡川やイセザキモールに散歩に出掛けている。	・毎日の食材の買い物に利用者が交替で出かけている。 ・イセザキモールのイベントや大岡川沿いの散歩、町内会行事に、車椅子の方も一緒に外出している。 ・個人契約のヘルパーや家族と外出や外食を楽しんでいる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご入居者の中で、1人だけ個人管理出来る方には所持していただいておりますが、その他の方につきましては、ご家族と相談して対応している。		

クロスハート中・横浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人の希望を優先しています。 職員が電話をかけて電話口に出てもらいなど必要に応じて対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは明るく清潔である。利用者はTVを見たり談笑して思い思いにくつろいでいる。死角等が無いように鏡等で工夫している。	・リビングに大きめのテーブル2か所とゆったりした椅子、複数のソファを置いて、利用者が好みの場所で過ごせるように工夫している。 ・花柄の壁紙や、居室ドアに違った花鳥の絵が描いてあり、居間には季節の花を活けたり、行事の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・自立の方に関しては、ご自身で席替えをしたりしてますが、要介助者につきましては、本人に確認しながら席替え等を行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者は各居室に使い慣れた家具やテレビなど自分の好みに応じた備品を持ち込んでいる。 ・転倒防止のため、居室に手摺りを付けている利用者もいる。	・入居時にベッドか布団を選択してもらっている。フローリング上に布団で過ごす利用者もいる。 ・家族の写真、人形、ベッド、たんすなど馴染の品を持ち込んでいる。 ・毎日の職員の清掃のほか、週に3回清掃担当専任職員が掃除し、室内は清潔に保たれている。	居室やリビング内では、利用者の生活の継続と衛生管理面からも、室内履きなどの利用をお勧めします。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・できること、できないことを職員が把握して利用者に対して接するようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 クロスハート中・横浜

作成日 平成 23年 2月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催すべきですが、自施設では開催が出来ていない。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催する。	年間スケジュールを決めて、ご家族や町内会、地域ケアプラザの方々に協力を依頼する。	1年間
2	13	認知症ケアの質の向上や情報の共有など、職員の教育に力を入れていく。	認知症ケアの理解を深めて、利用者へのサービスの均一化を図り、ケアの質を上げていく。	年間スケジュールを立てて、勉強会や研修を行なっていく。	1年間
3					
4					
5					